

道政報告

第1回定例会本会議 一般質問

身近な課題から海外戦略まで 「あつい心」で道政を推進!

おおし道議は3月8日の一般質問で、道産食品の輸出拡大、子供の貧困対策などについて取り上げ、道側から前向きな答弁を引き出しました。身近な課題から世界レベルの海外戦略まで、女性の目線を大切にするおおし道議の頑張りにより道政が着実に前進しています。

1. 食品ロスの削減について

大越議員 食べ残しなどの食品ロスをゼロにする道民運動の展開について知事から積極的な答弁をいただいたが、今後どのように取り組む予定なのか。

高橋知事 昨年11月から「どさんこ愛食食べきり運動」を進めており、今後は食材使い切りセミナーの開催や、小分け食材の販売や小盛りメニュー導入を働きかけていく。

2. ヘルシーポイントについて

大越議員 北海道食品機能性表示制度「ヘルシーDo」について、道民への調査では「聞いたことがある」人の割合が3割だった。認知度向上のために認定品の

高橋知事 中東市場に挑戦する道内事業者者に現地の情報を詳細に提供し、裾野を拡大するとともに、北海道ブランドの浸透を図りながら販路を開拓する。

大越議員 中東地域は富裕層が多く、道産食品の新市場となる可能性が大。道は牛肉の輸出拡大に取り組んでいるが、魚介類やスイーツなど、輸出品目の多様化により経済交流を促進できる。どう取り組むのか。

3. 道産食品の中東市場開拓について

高橋知事 道外企業やオンラインショップ、ドラッグストアなどへの働きかけを強化するなどして普及に努めていく。

4. 犯罪被害者の支援について

大越議員 他府県では、犯罪被害者や家族への支援について定めた条例が整備されている。本道でも条例制定を検討する必要があると考えますが、見解は。

高橋知事 被害者団体などから意見を伺いながら条例の検討を進め、道民が安全で安心して暮らすことができる社会づくりに取り組む。

5. 子供の貧困対策について

大越議員 内閣府のデータでは大人が1人の世帯の相対的貧困率は54.6%と高い。ひとり親家庭の状況を把握するため新年度予算に実態調査費を盛り込んでいるが、どんな内容か。

柴田教育長 北海道の歴史・文化の創造に貢献した先人たちの力強い生き方などに触れ、勇気や知恵を感じられるような教材の作成に取り組んでいる。

7. 道徳教育について

大越議員 平成30年度から全面实施される道徳の教科化に伴い、札幌開祖である志村鐵一をはじめ、本道にゆかりのある偉人を題材とした道独自の教材を活用することが大切と考える。どのような内容のものを目指すのか。

6. 英語教育の充実について

大越議員 北海道は世界に冠たる観光地を目指しており、外国人と円滑にコミュニケーションを図るための英語教育が一層重要になる。中学校教員の英語力向上に、どう取り組むのか。



少子高齢化対策監 親の就労状況や取得したい資格、養育費の状況などを把握し、支援体制や支援制度の周知方法などの検討に活用していく。

有言実行 おおし道議が議会質問 「食品ロス対策」が新年度予算に計上!

道議会で強く訴えてきた「食品ロス対策」事業費が、道の新年度予算に計上されました。農水省の調査では、食べ残しや賞味期限切れで捨てられる食品ロス率は、家庭3.7%、食堂・レストラン3.2%、宴会14.0%で、国民1人1日あたり、おにぎり2個分の量の食料を捨てていると言われてい

ます。

食べ残しを減らすことで食べ物の大切さ、食料生産に携わる人々への感謝の気持ちを共有する「どさんこ愛食食べきり運動」を推進します!

北の大地のめくみ愛食総合推進事業費 5500万円	食品ロス対策事業費【新規】	323万6000円
	北海道らしい食育推進事業費	276万4000円
	市町村等取り組み支援	4900万円

平成28年の主な質問一覧

<第2回本会議一般質問>

1. 人事行政
2. サハリンとの経済交流
3. 性感染症と人工中絶の防止対策
4. 児童相談所の体制強化
5. 子供の貧困
6. 食品ロス問題

<第3回本会議一般質問>

1. 災害対策(福祉避難所の確保)
2. 観光振興
3. 女性活躍社会の推進
4. 食の輸出拡大
5. 児童虐待の防止
6. 食品ロスの削減
7. 子供の学力向上

<総務委員会>

1. ワークライフバランスの推進
2. 避難所運営ゲーム(HUG)北海道版作成
3. 地域防災計画
4. 避難所マニュアル作成

<少子・高齢社会対策特別委員会>

1. 児童相談所における児童の一時保護

<予算特別委員会>

1. まんがコンテストの実施
2. スクールカウンセラー
3. ストレスチェック
4. 学校における情報の安全管理

